第１回市川三郷町立中学校統合準備委員会　会議録

１　会議の場所 令和８年６月２４日（水） 午後７時００分から 午後８時３０分まで

２　開催場所 市川三郷町役場本庁舎 大会議室

３　出席者数　委員２７名、教育長、事務局４名

４　議事
（１）統合準備委員会設置要綱について

（２）専門部会の設置について

（３）今後のスケジュールについて

５　発言内容
（１）統合準備委員会設置要綱について
意見・質問なし

（２）専門部会の設置について
委員：７条の２「部会は委員長が任命する委員及び関係学校の教職員をもって組織する」とは、例えば教務主任等の教職員と捉えてよろしいか。

事務局：その通り。学校に関わることであれば、教務主任や専門の方の意見は必要だが、違う視点から保護者や地域の方の意見も参考にしたい。人選については委員長と協議の上、改めてお知らせする。

委員：検討項目のその他についてはどのようなことを想定しているか。

事務局：列挙している検討項目以外で出てくるであろう部分をその他としており、まだ不明な点もある。

委員：資料中の「魅力あふれる素晴らしい中学校」とはどのような定義か。

事務局：２年前に設立した市川三郷町立小中学校適正規模・配置等検討委員会で、統合に向けての一番の目標は「児童生徒にとってよりよい教育環境の充実」となっており、それが本委員会でも継承されるべきと考えている。その上で、これから準備委員会で検討する中で、「魅力ある」という部分を具体的に検討していく必要があると捉えている。

委員：新中学校の位置は決まっているか。

事務局：最終的に町の方針として、統合後の中学校に関しては、市川中学校の校舎を利用することとなっている。

委員：より良い教育環境を目標にしていただきたい。

委員：専門部会について、委員は大体均等割でそれぞれの部会に所属するのか。学校運営部会が、生徒が直接関わる内容となり、場合によっては児童生徒や保護者にアンケートをとる必要があるなど、この部会の負担が大きいと感じる。現段階の部会の割り振りについて伺いたい。

事務局：２８名の委員を均等にすると１部会あたり７人ずつの構成になるが、学校運営部会が内容的に非常に多くの項目を検討しなければならないということは承知している。具体的な人数配分はこれから検討となるが、負担割合に応じて構成は再度検討する。

委員：富士川町や身延町で統合があったが、資料や経緯を参考にしているか。

事務局：他市町村の状況も把握した上で提案しているが、それぞれの町に合った方法もあると考えている。個別の内容については準備委員会の進捗によって、多少なり変わってくると思うが、他市町村の事例も参考にしていく。

（３）今後のスケジュールについて
委員：次回は９月の開催となるが実際には９月の時点では各委員は各専門部会に振り分けられ、それぞれに部会がスタートしていくというイメージでよいか。

事務局：その通り。

委員：それぞれの検討項目の矢印が令和１０年度の２月まで伸びているが、ここまで検討していると、間に合わない項目があるように思う。令和１０年度は各中学校の閉校もあわせて

しなければならないということを考えると、かなりの部分を令和９年度中には決めていく必要がある。例えば制服について、令和１１年度にスタートするのであれば、令和１０年度の５、６月ぐらいには決めることが望ましい。その他にもそういったことは多々あるのではないか。

事務局：事務局としてもその認識でいる。これはあくまでも最終的に令和１０年度の２月までにはきまっているとの認識でのスケジュールとなっている。
これから各部会での検討は早め早めに前倒しでやっていきたいと思う。例えば通学路の検討についても、通学路を考えただけでいいかというとそうではなく、場合によってはスクールバスを買わなければならないということもある。買うとなると町も予算計上が必要になるため、かなり前倒しに検討していく必要がある。タイトなスケジュールであることは認識しているので各委員のご協力をお願いしたい。

委員：次年度予算に間に合わせるためには例えばどんなに遅くても前年度の夏ぐらいまでに計画を作らないと町長の査定等の手続があると思うので、スケジュールについては全体的に見直すことは可能か。

事務局：その通りだと考えている。スケジュールは全部確実に終わっているという意味での矢印を引いたと思っていただきたい。予算も含めた中で事務局として、いつ頃までにどの作業を終える必要があるかがわかるように、全体的なスケジュールを各部会の際に改めて可能な限り提示し、検討をいただきたい。

委員：WBS（プロジェクト目標を達成するために必要なすべての作業を階層的に細分化・構造化した図）ではないが、作業内容を分解して部会のときに示していただきたい。

委員：部会をまたぐような検討項目があった場合、こういう場で調整をしていくのか、あるいは部会ごとに連絡を取り合いながら調整していくのか。例えば校歌において校訓や教育目標を反映するのであれば部会ごとの横連携や調整をどのようにしていく必要があるか。

事務局：部会をまたぐ項目については、基本的には部会間で可能な限り調整をしていただきたいが、準備委員会も年４回の開催予定であるので、タイミングが合えば全体の中での情報共有もできると考えている。９月の委員会時に、方向性を出したい。

教育長：校長先生は１０人がそれぞれの部会に分かれるため、細かいことは校長会等のタイミングで話し合いもできるのでまた調整していきたい。

委員：現在の小学校６年生は中学校３年生のときに統合になるが、今年度中に制服を買い、また中学校 3 年生のときに新しい学校で制服を買うとなると２回の購入となるため、今年中に方向性を決めていただければ保護者も安心すると思う。部活動も新中学１年生が入部するが、中学３年生で統合となり、その部が廃部になると２年間活動していたのに３年生のときにはないということも考えられる。そういったところが見えてこないと来年の新１年生の部活動を選ぶ際に困ると思うので、それは今年度中に方向性等を示してほしい。

委員長：制服・部活動の問題は、子どものたちのために、いい方法を皆さんで検討をしていく必要がある。次回時には精査されたスケジュールを提示したい。また各委員においては資料・情報提供等していただければありがたい。

（４）その他

委員：地域学校協働本部の活動は三珠地区、市川・高田地区、大同地区、六郷地区それぞれ四つある。協働本部では、小中学生を中心に、子供たちの活動を活発にすることで地域の活性化を図ろうとしており、その基本的な考え方は、中学校が統合されたとしても残していきたいと思う。例えば、上野小や大塚小、あるいはほかの小学校に通っている児童が中学生になると市川中の場所に来ることになる。しかし、住んでいるところは上野や大塚、あるいはほかの地区に住んでおり、そこで地域の活動はやっているわけなので、ぜひ地域の活動にその子たちも巻き込みながら、その子たちを中心として地域がもっと活性化できるような活動をそれぞれの協働本部で考えてやっているので、そこは残したいと思っている。中学校が統合されて、中学生がいなくなるのではなくて、そこに住んでいる子たちを使って今の地域をより活発していくようなことも頭に入れながら、設立準備が進められるといいと考えている。

委員長：委員会には地域や PTA の皆さんもいるので、地域でそういった活動を継続できるよう検討をお願いしたい。

６　次回日時　令和８年９月上旬ごろ　午後７時から